

10/18 見て 聞いて 楽しく学ぶ
～荒尾・玉名地区 親と子の交通安全教室～



▶白バイの乗車体験は子どもたちに大人気でした。

㈱九州トックスは、産業団地内にある同社敷地で小学校低学年までの子どもとその家族を対象に交通安全教室を開催しました。教室では、カルタで学ぶ安全講和、車の死角や停止距離についての実技、パトカーと白バイの見学・乗車体験などを実施。14組の親子が楽しみながら交通安全への理解を深めました。参加者は「普段の生活で体験したり、子どもに教えたりすることができない内容だったので勉強になりました。また参加したいです」と、話していました。

10/19 ホクホクの秋の味覚
～カライモ掘り大会～



▶5kgネットいっぱい収穫したカライモの販売も行われました。

府本地区協議会主催のカライモ掘り大会は金山下区のカライモ畑で行われました。同大会で掘られるカライモは、昔ながらの方法で苗床づくりを行い、苗を植え付けて栽培したものです。市内外から300人ほどが訪れ、金山の赤土から採れる大ぶりのカライモを収穫。「大きいね!」「ここにもあった!」と、話しながら楽しんでいました。会場ではふかしたカライモやカライモ入りカレーが振る舞われ、参加者は地域の秋の味覚を満喫しました。

10/25・26 読書の秋を満喫
～図書館まつり～



▶ソフソフこわいおはなし会には多くの子どもたちが参加しました。

市立図書館と中央公民館で図書館まつりを開催しました。本の交換会、朗読鑑賞会、図書館クイズ、水ヨーヨー釣り、人形劇やサラリーマン冒険家・坂本達さんの講演会などが行われ、たくさんの人が読書の秋を楽しみました。こわいおはなし会に参加した小学生は「怖い話が大好きなので、とても面白かったです。お薦めの本の紹介もあったので、参考にします」と、話していました。

10/27 荒尾の物語を後世に
～地域づくり夢チャレンジ大賞受賞～



▶佐藤進副会長、西村誠会長、前畑市長(左から)

荒尾市ものがたり観光研究会が荒尾の感動づくり事業で県知事表彰「地域づくり夢チャレンジ大賞」を受賞しました。地域の歴史や魅力を再認識して、誇りや感動を持ってもらい、地域内外へ発信しようと、荒尾干潟・三池炭鉱・荒尾梨などを題材にした物語を制作。物語は市役所や市内観光施設で配布しています。研究会会長の西村誠さんは「物語を通して、荒尾の魅力を知ってもらい、未来へつなげたいですね」と、思いを語りました。

10/26 荒尾の「芸術の秋」を味わう
～11/23 市民文化祭～



▶木竹藤展には45点の力作が展示されました。

市民文化祭は文化センターで行われ、1カ月間にわたり、さまざまな芸術が披露されました。日舞・三曲・吟剣詩舞などの合同発表会や混声合唱団 ARAO の発表会が行われたほか、詩・俳句などの文芸展、書道・写真・陶芸などの総合美術展、華道展なども行われました。来場者は「芸や作品のレベルが高いので、毎年楽しみにしています。その年の流行が取り入れられているものも多く、素晴らしいですね」と、話していました。



1～2_舞台芸能合同発表会では歌、踊り、楽器演奏など、たくさんの人が日頃の学びの成果を披露しました。3～4_総合美術展では書道、陶芸、絵画や押花などが来場者の目を楽しませました。



寿 100歳 おめでとうございます!



10月30日に100歳のお誕生日を迎えられました。本を読むことが好きで、現在は子どもからプレゼントされた小説などのCDを聞いて過ごしています。ゲートボールなど体を動かすことも好きで、以前は遠征試合に行くこともありました。遠方に住んでいる家族がいつも交代で訪ねてくるので、楽しみにしているそうです。

※本人のご希望で写真は掲載しません。

11/3 海の幸と山の幸の食の祭典
～MARCHE DE ARAO～



▶終始、会場はたくさんの人で溢れかえっていました。

荒尾飲食店組合の主催でMARCHE DE ARAOは市民体育館駐車場で開催されました。熊本県や福岡県から41店舗が出店し、県内外から2万人以上が来場。お店から漂うおいしそうな匂いに誘われ、たくさんの人が料理を次々に買い求め、食欲の秋を満喫していました。ステージでは荒尾市応援隊長・西村赤音さんが司会を務め、あらお観光大使・嘉門達夫さんもスペシャルゲストとして登場し、会場は大いに盛り上がりました。